研究会・地域部会の報告書

提出者： 遠藤優　　/ 提出日：2023/11/1

研究会・地域部会名	生命情報科学若手の会
代表者(所属機関名)	今野直輝（東京大学大学院 理学系研究科 生物科学専攻）
タイトル(イベント名)	生命情報科学若手の会　第 15 回年会
日時	2023 年 10 月 7 日～9 日
場所	料亭旅館 松濤軒（千葉県長生郡）
共催団体	特定非営利活動法人　日本バイオインフォマティクス学会
後援団体	
参加人数	40 名（内訳：一般参加者 33 名、招待講演者 2 名、スポンサー5 名）

目的：

本年会の目的は、生命情報科学研究に携わる学生および若手研究者が議論・交流する機会を設けることで、次世代の生命情報科学を担う若手層の育成とネットワーク形成を促進することである。今日の生命科学研究において、実験計測技術の普及と発展により、扱われるデータ量は飛躍的に増加している。このようなビックデータを効率よく的確に処理し、生命現象を明らかにするためには、生命情報科学が必須である。しかし、研究の遂行には生物学から情報学まで幅広い分野の知識が必要となるため、キャリアが浅い若手研究者や学生が広く分野を把握することは困難である。そのため、若手研究者が気軽に情報交換・研究協力し合える、分野を越えた人材交流基盤の構築が、今後の生命情報科学分野には不可欠である。

そこで本会は、国内外の生命情報科学研究に関わる学生および若手研究者が交流できる場を提供することを目的に、過去 14 回にわたって年会と称し研究集会を開催してきた。直近の 3 回はオンラインでの開催となったが、今回は参加者同士の交流をより促進するため、オンサイトで参加者全員発表の合宿形式で開催する。

概要：

3 日間にわたって、複数の企画を実施した。主な企画を以下に示す。

- ワールドポスター：5–6 人のグループに分かれ、テーブルを囲んで互いに質問し合いながら自分の研究のポスター発表を行った。その流れを、グループを変えながら複数回実施した。
- 招待講演：生命情報科学分野でご活躍されている研究者を招待してご講演頂いた。本年度は下記の 2 名の先生にご登壇いただいた。
  - ○ 岡田随象（大阪大学　医学専攻ゲノム生物学講座）
  - ○ 河口理沙（京都大学　iPS 細胞研究所）

Copyright © Japanese Society for Bioinformatics. All Rights Reserved. 22.10.04ver

● NGS(Next Generation Science)：グループごとにディスカッションを行い、生命情報科学での未解決課題に対して新たな研究アプローチを提案するアイデアソン企画。今回は 6 つの課題に対し、各グループでディスカッションを実施した。
成果および感想： 本会は 40 名の方にご参加いただいた。参加者の 8 割は学生であり、分野はバイオインフォマティクス以外にも、生命科学から計算機科学までと多岐にわたった。オンサイト開催は参加者同士の密な交流が実現しやすい一方、参加にあたって旅費や参加費を負担する必要があるという課題がある。そこで本会では、希望のあった参加者を対象に、交通費及び宿泊費のサポートを実施するとともに、JSBi の会員に対して参加費を半額もしくは無料にした。その結果、北は北海道から南は熊本まで、全国各地から学部生や院生、若手研究者に参加いただき、特に学生は参加者の 8 割を占めることとなった。 研究発表だけでなく懇親会まで、参加者同士で研究に関する熱い議論が交わされた。特にアイデアソン企画である NGS では、限られた時間の中で、自身の知識に基づいた、夢のある自由な発想から着想されたアイデアをチームごとに発案し、最終日にはグループごと創意工夫を凝らしたのプレゼンが行われた。加えて質疑応答では、参加者から多くの質問が出て、活発な議論を促すことができた。 生命情報科学若手の会では、年会以外にも 1、2 ヶ月に一度のセミナーをはじめ、メーリングリストへの登録や参加者間の自発的な SNS アカウントの交換により、会の終了後も参加者間でゆるくつながりを保てる環境を構築している。よって本会で築かれた参加者間の繋がりは、今後も必要に応じて情報交換・協力しあえるような、バイオインフォマティクスを支える人材層形成の場として機能していると自負している。当日の様子や参加者レポートなどを若手の会の公式 HP に掲載しているため、併せてご覧いただければ幸いである。（https://www.bioinfowakate.org/home）

Copyright © Japanese Society for Bioinformatics. All Rights Reserved. 22.10.04ver